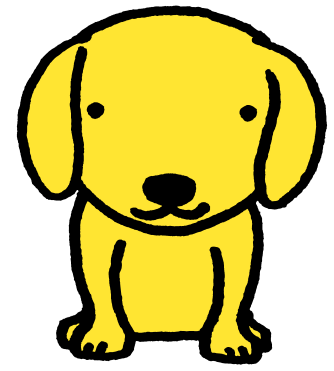


NEWS LETTER



NO.24

2006.6.1

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本

〒658-0003 神戸市東灘区本山中町 4-18-22

☎078-453-5931

<http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>

「みんないっしょ」

目には青葉 花粉症はホトンド消え 初ビアガーデン

良い時となりました。今年の春が日本での初めての春だというのに、花粉症に苦しむフィリピン人学習者がいました。杉花粉は日本だけではなく、みんないっしょなんですね。

「みんないっしょ」でひとつお話を……。さまざまな国籍の人たちに日本語を教えるとき、政治・宗教のご法度といわれた覚えがありますが、長く付き合っている学習者とは、近頃の時事問題が話題に上ることもあります。先日、韓国の方と北朝鮮による拉致被害者の話から軍隊や自衛隊の話が及んだ折の彼女の発言です。「みんないっしょに鉄砲も軍隊もなくせばいいです。」本当にその通りです。国家レベルでは異なった主義を掲げて、北だ南だ、東だ西だといって反目していても、私たちレベル、いわゆる草の根レベルの思いは「みんないっしょ」なのではないでしょうか。誰ひとりとして戦争なんぞ望んではいません。

また一方で、靖国や竹島(独島)がことさら敵対心を煽るニュースとして取り上げられるとき、私たちはそれをとても注意深く受けとめなくてはなりません。大政翼賛会的な「みんないっしょ」に陥ってしまっただけなのではないのです。世界には、情報操作による独裁や戦争が未だにまかり通っているところがあります。それらとは無縁の社会、インターネットには情報が溢れた社会にいると思込んでいる私たちも、知らぬ間に、大変危険な「みんないっしょ」に向かっているやもしれません。

私たちは常に、なにごとにも受け入れられる柔軟さと、なにごとにも少しは疑ってみる用心深さと、なにごとにも真摯に自ら学ぼうとする熱心さを持つべきです。そして一番大切なことは、愛だなんていいません、自分の頭、草の根レベルの頭で考えることです。今夏のビアガーデンでは、以上のことに留意しつつ異文化交流に励んでみてはいかがでしょうか。そうすればきっと、人間の心の奥底にある「みんないっしょ」の思いにたどり着けるはずです。 (古瀬尚子)



特集 2006 年春 ひろばレポート①

「おのみち日本語教室」訪問記

神戸松蔭女子学院大学

下田美津子

ニューズレター22号の勝島千晶さんの記事を覚えておられるでしょうか。勝島さんは神戸松蔭女子学院大学で日本語教育を専攻し、大学時代に「ひろば」でボランティアを長く続けていた卒業生です。郷里の尾道に帰って、企業の技術研修生に日本語を教えるかたわら、地域の日本語支援「おのみち日本語教室」の中心的なメンバーとして活動しています。瀬戸内の春もまだ浅い2月26日、かねてから約束していた「おのみち日本語教室」の研修会に西村さんと井畑さんの3人で行って

きました。

「おのみち日本語教室」は「ひろば」とは違い、尾道市生涯学習課が運営主体の地域日本語教室です。研修会は「ひろば」の3人が生涯学習課が教室に委託した研修会の講師を務めるという形で行われました。まず西村さんが「ひろば」のこれまでの活動と運営方針、コーディネーターの仕事内容を失敗談も交えながら話し、次に「ひろば」でビデオ撮りしておいた何組かのマンツーマンの楽しそうな活動の模様を井畑さんが紹介しました。そして具体的な日本語



支援の方法について下田が教材紹介と教材分析をしながら、「おのみち日本語教室」に合った活動の方法を尾道の支援者のみなさんが自分たちで考えるためのいくつかのヒントを出していき

ました。「おのみち」では『みんなの日本語』を使っての週1回のグループレッスンが主となっていますが、この教科書は日本語学校のような集中型の日本語授業のための教材なのです。教師と学習者という関係ではなく、もっとお互いを知り人間関係のネットワークを作って情報を交換したり、地域で暮らしたりするための知恵を出し合う場にするにはあまりふさわしい教材とはいえません。

最近では各地の日本語教室での実践から生まれた良い教材がたくさん出版されています。ほんの少しの日本語文法と教授法技術で教室をミニ日本語学校ではなく共生のための楽しい場にするためのいくつかの教材があります。そこで紹介した、神戸の「港島」(ポートアイランド)で作られた地域密着型のごみだし情報などを盛り込んだ「わくわく」のようなユニークな教材がヒントになって、いつの日か「尾道の人の、尾道の人の、尾道の人のための」教材ができあがるかもしれません。

研修会が終わって、「おのみち」の若い人たちと夕食をとりながら話せたのは収穫でした。この研修会をお世話くださった市役所の生涯学習課の方、他府県の大学を出て地元へ帰って仕事をしてい



る方、そうした、ものを考える有能な女性たちを含めてここでも女性の力を感じました。自分の住む地域をより豊かな共生社会に変えていくのは彼女たちなのではないかという思いを強くしました。

今回の旅のもうひとつの目的は「ひろば」の支援者の中心的存在であった佐古田幹子さんのお墓参りでした。研修会の翌日、尾道から広島へ向かう山陽線を途中下車して、勝島さんと4人で訪れた墓所は水仙やクリスマスローズが咲く小さな秘密の花園のような空間でした。里山に近いその高台は澄んだ鳥の声と陽の光にみちて、本当に幹子さんにふさわしいサンクチュアリーのように思えました。

帰りは広島駅で井畑さんおすすめの店で広島焼きをお持ち帰りしてもらい車中の人となりました。そして新幹線でよく見かける一仕事終えて帰路につくサラリーマンのおっさんのように、勝島さんのお母様が差し入れてくださった美味しいかまぼこを肴に私も缶ビールの栓を抜いたのでした。

特集 2006 年春 ひろばレポート②

「ニュージーランドの日本語事情」

山本温子

私は2月9日から3月12日までニュージーランドへ語学研修に行ってきました。その間に2度ほど Long Bay College という高校で授業見学をさせてもらい、日本語を教えるアシスタントの仕事を経験することができました。この学校は1日に日本語のクラスが5つあり、初級から上級までの生徒が学んでいました。1クラスの人数は10名から15名くらいでした。日本語クラスにはアジア系（中国や韓国）の生徒の数が多く、印象的でした。

初級クラスでは“平仮名”の勉強をしていました。生徒たちは色鉛筆で平仮名の一画一画を色分けして塗り、書き順を覚えていました。また、2色のモールを使い、先生が言う平仮名を誰が一番早く作ることができるかを競いあっていました。モールを使って平仮名を覚えるという方法はとてもおもしろいと思いました。

中級クラスでは絵パネルを使って「ます形」の練習をしていました。また、同じ意味になるような英語と日本語のカードを探す語学版神経衰弱で盛り上がっていました。数字と異なり、見た目が同じものを探すわけではないので、かなり難しかったです。あちらでは神経衰弱のことを memory と呼んでいました。

もう一つの中級クラスでは、宿題で各自作成してきた自己紹介文を先生が読み上げ、それを聞いて、クラスの誰のことを言っているかを当てるということをしていました。みんな住んでいる場所や国籍を聞くと、それが誰なのかを推測して、次々と答えを叫んでいました。このクラスは中級といってもレベルのばらつきが大きく、ゼロ初級に近い子がいるかと思えば、すらすらと



日本語を話すことができる子がいるなど、クラス運営がとても難しそうなクラスでした。しかし、私が見学させてもらった他のどのクラスよりも元気がよく、活発に発言しているのが印象的でした。

このクラスで、私は書道のデモンストレーションをさせていただきました。「雲」「愛」「龍」という字を書き、それぞれ簡単な説明と共に見てもらいました。生徒たちは、みな一生懸命に漢字を真似てノートに書き写していました。また、このクラスではcompliment (褒め言葉) をつい最近勉強したらしく、私が実演していると、クラスのあちこちから「すごいですね～」、「とてもきれいですね」というような褒め言葉が聞こえてきてうれしくなりました。それでも、Japanese style として「いえいえ、そんなことはないですよ」という返答を日本人はするのだと習った彼らの前では、私もその返答をすることが期待されていました。そこで、私と彼らの妙な会話のやり取りがしばらく続きました。私も彼らもその会話を存分に楽しみました。

最後に上級クラスについてですが、このクラスはナチュラルスピードの会話をほとんどの人が理解できていました。このクラスでは敬語を勉強していました。例文として「イギリスのエリザベス女王から家をいただく」という文が挙げられました。このとき、「女王」のふり仮名として先生が「じょうおう」と黒板に書いたところ、ある問題が発生しました。一人の女の子が広辞苑には「じょうおう」という記述がないと言い出したのです。「じょうおう」ではなく「じょおう」が正しいと主張し、授業が一時ストップするということがおこりました。確かに広辞苑を調べてみると、「女王」の項には「じょおう」と読み仮名がついていました。私もこのことにはびっくりしました。「じょうおう、じょおうでも可」というような説明ならまだしも、普段使っている「じょうおう」が辞書に載っていないということは大変な驚きでした。

このような体験を通し、日本にいれば気づきもしないようなことを発見する機会をたくさん得ることができました。とても有意義な時間を過ごせたことに感謝しています。この1カ月の短期留学や実習を通して、ますます日本語教師になりたいと思うようになりました。これからも日本語教師になるために頑張って勉強していきたいと思います。

支援者・学習者紹介

今号はひろばで勉強している「ジュニア」を特集しました。

★小澤恭子さん・西村美紀さん・西村美佳さん・西村龍介君 (中国出身)

素敵なティーンエイジャー

以前から興味のあった日本語教師の勉強をたくさん、3年前に日本語教師養成講座を1年間受講しました。「にほんごひろば」でボランティ

アを始めたのは講座終了後の2年前からです。スコットさん(面白いカナダ人)と一緒に、今も水曜日に学習しています。思いもかけない所で「この文法がわかりません」「どうしてこうなるのですか」と聞かれるスリルを何回も味わってきました。

この春4月からは、昨年9月に中国から日本に来られた西村美紀さん(18歳)、西村美佳さん(15歳)、西村龍介君(13歳)の姉妹と弟と土曜日に学習する事になりました。

やさしくしっかりしている長女的美紀さんは、日本語学校に通っています。とても気のつく次女

の美佳さんは中学生です。シャイでユニークな長男の龍介君は小学生です。3人とも笑顔の素敵な、生き生きとした「ティーンエイジャー」です。



まだ日本語でコミュニケーションが十分にとれませんので、私の説明が解らないのでは、学習スピードが早すぎるのでは、という不安の中で勉強を始めたばかりです。3人と学習してとても楽しいのですが、一つだけ困った事があります。龍介君が自信なさそうに答えたり間違えたりすると、美紀さん美佳さん、二人のお姉さんが同時に振り向き正解を教えてくださいます。本当に仲の良いきょうだいです。ちなみにこの前のレッスンで、「中国で一番有名な人はだれですか」という質問に、お姉さん達は「毛沢東」と真面目に答えました。弟の龍介君はニッコリ笑って「ぼく」でした。

これからの学習がとても楽しみです。

★中川代利子さん・洪周希（ホン・ジュヒ）さん
（韓国出身・女子）

将来、大きな意味があるように

私と日本語を勉強している、洪周希ちゃんを紹介しましょう。2年前に韓国からやって来た12歳の女の子です。芦屋にご両親と弟さん（ホン・ウォンギ君）の4人で暮らしています。にほんごひろば岡本で土曜日の午前中に勉強しています。周希ちゃんは韓国人ですが、インターナシ

ョナルスクールの生徒でもあります。そうです、彼女は家庭では韓国語、学校では英語、日本人とは日本語を話す trilingual(3カ国語話者)なのです。

よく、外国語学習には適齢期があり、4歳から12歳までが最適であると言われますが、彼女を見ているとうなずける部分も多々あります。乾いたスポンジが水を吸い込むように、いろいろな新しい知識を日々すばやく吸収しているように思われます。

さて、このように書くと周希ちゃんが3カ国語話者なのは単に3カ国語を話す環境と12歳という若い年齢のおかげだと受け取られがちですが、その陰に彼女の並々ならぬ日々の努力がうかがい知れます。学校の宿題で大変だろうと思いつつ、「もし時間があれば、してね。」と渡したある程度の量の宿題もいつも完全にやり終え感心させられます。日本語の難しい文法もあまり混同することなくスムーズに理解するのは、彼女の賢さゆえかもしれません。しかし実際問題として、周希ちゃんのように母国語以外の言語で勉強をするのは並大抵の苦勞ではないことは確かです。



では次に私自身のことについても少しお話ししましょう。私は主婦で21歳の息子と18歳の娘の母親でもあります。私の夫はサラリーマンで、いわゆる通勤族です。ただ少し変わっているのは海外に赴任させられることでしょうか。結婚してすぐにイギリスに6年間滞在し、日本に帰国して、その5年後にはアメリカに6年間滞在しました。このように書くと、「いいなあ」と思われる方も

いらっしゃるかもしれません。確かに異文化の中で日本とは違う考え方、とらえ方に触れ、いろいろな刺激を受けることもできました。しかしその一方で、イギリスにおいては出産と育児、アメリカにおいては子供の教育問題と格闘する日々でもありました。アメリカでは子供たちは週日にはアメリカの現地校に通い、毎週土曜日は朝から夕方まで日本人学校に通いました。ですから、周希ちゃんの困難さは身をもって理解することができます。彼女は2カ国語のみならず、3カ国語と格闘しているのですから。

周希ちゃん一家は来年1月には韓国に帰国する予定です。彼女が日本に滞在し、そして日本語を勉強したことが彼女にとって将来大きな意味があるように、韓国へ帰国後も長く日本語の勉強を続けていってほしいと思います。

★**木山和子さん・洪元基（ホン・ウォンギ）君**
（韓国出身・男子）

ささやかな国際交流を楽しんでいます

遠い学生時代より国際交流に興味がありました。3年前、退職を機にその想いを現実にしようと日本語教師養成講座を受講しました。ところがいざ日本語と向き合ってみるととても複雑で、それを教えることはさらに難しいとつくづく実感しました。卒業後同じクラスだった先輩に「にほんごひろば岡本」を紹介いただき、昨年7月よりお世話になっています。

今回の学習者は韓国人の洪元基（ホン・ウォンギ）君、10歳のかわいい男の子です。お父さんの仕事の関係で2004年1月からファミリーで来日されています。現在インターナショナルスクールの4年生で、学校では英語を、自宅では韓国語といったように3カ国語を使い分けています。でも、いずれの言葉もまだ学習の途上で、当初は私のような教え方で理解してくれるのか、「ちょっと大変かな？」との不安もあったのですが、毎週野球のユニホーム姿でカッコよく元気にひろば



に来てくれている彼に、ほっとしています。

今は小学校の教師をしている友人のアドバイスを参考にしたり、また、折り紙建築やなぞなぞクイズなど興味を引くようないろんな方法を試しながら、次回への課題につなぐことで、少しずつ、より学習しやすい方向にもっていければと新たなチャレンジの毎日です。言語習得には10歳から12歳が一番効果的だといわれています。今10歳のウォンギ君には、この時間を大事に日本にいる間に友達をたくさん作って仲良くなってい、と思っています。このひろばでの学びがその役に立つのであれば、次の学習日を楽しみにしている私です。

★**坂本満子さん・文亨鎮（ムン・ヒョンジン）君**
（韓国出身・男子）

ドラえもん大好き ひろばの最年少

文亨鎮君はインターナショナルスクールの2年生。笑顔がとてもかわいい少年です。

お父さんのお仕事の関係で、来日して1年ですが日本語が驚くほど上手！

学校では英語と日本語を、家ではハングルを勉強する忙しい小学生ですが、一番好きなことは友達と遊ぶこと。またスポーツも大好きで韓国ではサッカーを日本では剣道とバドミントンを習っています。もう一つ好きなものはテレビのアニメで、中でも“ドラえもん”が一番のお気に入り

り。持っている漢字のテキストもドラえもんワールドで、楽しみながら勉強しているんです。



先日、ドラえもんの好物“どらやき”を知らないというのでプレゼントしたところ、一口食べて笑顔いっぱい“おいしい”を表現してくれました。

ひろばでの勉強はこの3月からスタートしたばかりです。勉強の中に遊びやゲームを取り入れて楽しく学べることを考えながらやっています。

滞在中は日本語の勉強はもちろん、いろんな異文化を体験して欲しいと思っています。

亨鎮君が成長していく中で、これらのことがきっとなんらかの形で役立つことでしょう。

支援者紹介

★平松 久さん

印象深い時間を作りたい

はじめまして、平松 久と申します。生粋の尼崎人、尼っ子です。(写真右が平松さん)

しばらくの間、ひろばを見学しながら、参考にしたりネタを仕入れたり(盗んだり??)していましたが、今回、神戸大学海事科学部の学生で韓国人の李さんと朴さんを担当することになりました。

彼らのニーズは日本語を話したい、学校で習っ

たことをこの場でたくさん使ってみたいということでした。ボランティア教室では自由度が高いため、行き着く先は同じでも色々なアプローチがありますよね。

ここで自分は、何をすればいいのだろう?と考えたとき、私が英会話を習っていた頃を思い出しました。初級では指を折りながら文の組み立てをリードしてくれた先生、なんとか伝えようとあれこれ言葉を探している時間を待ってくれた先生などなど……投げかけられたトピックは数多く、好きなアーティストの紹介などは熱くなりまし



た。私たちも、そんな印象深い時間を作っていければいいなと思っています。

具体的には、彼らが会話の中で「今ならこの構文使えるのかな?」というタイミングを見つけてもらえるような展開を考えています(これがなかなか難しいのですが……)。

やっている事に解釈をつけると堅くなるしくなりますが、それは頭の中での世界、実際は身近な話題で会話(練習)をするんですけど。要は楽しくなきゃね。まだまだお互い自己紹介の範疇、ネタは尽きません。

精一杯背伸びして、ペンを進めてきましたが、今後も学習内容、進め方などのご意見やご指導、よろしくお願いいたします。

さて、18年度春季 青年海外協力隊に日本語教師で応募してしまして、もうすぐ一次選考が行われます。実は再チャレンジ、二度目の挑戦になります。協力隊の中で人気職種、難関ですが、がんばります。応援してください。

しえんしゃ がくしゅうしゃ
支援者・学習者のひろば

●六甲山ハイキングだより 第2弾

4月23日日曜日、六甲山へ行ってきました。

昨年の六甲全山縦走登山の話を書いたところ、彼女が「私も六甲山に登りたい!」と言い出したのがきっかけで、今回の登山は実行されました。全山縦走の後、冬になってしまったこともあり、若干、冬眠気味だったので、春の訪れとともに登山も再開しました。メンバーはノーラクさんとラハールさん、ノーラクさんのお友達と私の友人2名の計6名でした（村上先生は風邪のためお休みでした）。



当日の朝まで小雨が降っていたのですが、10時に集合した時には止んでいて気温も高く、雨上がりで空気も澄んでいてとても歩きやすいコンディションでした。今回はJR住吉駅からバスで渦森橋まで行き、そこから六甲山に入って、寒天橋、天狗岩を経て六甲ガーデンテラスまでの2時間くらいのハイキングでした。

初めはノーラクさんともラハールさんとも楽しくおしゃべりをしながら歩いていましたが、歩き出して30分もしないうちに口数がどんどん減って無言になってきました。しばらく運動をしていなかったのも、なるべく楽なコースを選んだつもりでしたが、登っていくにつれて、自分の体重が増えていることを重力に実感させられました…。ノーラクさんもラハールさんもかなりしんどそう

でしたが、ノーラクさんのお友達のプラモーさんはとても元気で、私の友人とずっとおしゃべりをしながら一番前を歩いていました。感心して聞いてみると、自宅の近くの裏山を毎日散歩してから出社していたらしく、数カ月で10kgもダイエットしたそうです。やはり何事も継続が力ですね。

ようやく天狗岩に到着したときは昼前で、休憩と写真撮影をしました。とても景色が綺麗でラハールさんはしんどいながらもずっとカメラのシャッターを切りまくっていました。まだ、桜も少し残っていて、場所によると梅も咲いていました。しかし、何といてもツツジとアセビが満開でした。六甲山には色々な種類の草花がありますが、この時期はこの2種類が代表的です。ラハールさんはこちらを忘れずしっかり写真に納めていました。

その後六甲山オリエンタルホテルの裏側に出て、途中、みよし観音という像を見学しながら、舗装された道を30分くらい歩いてゴールの六甲ガーデンテラスに到着しました。ここのレストランで昼食を取り、下山の話をしていると、ノーラクさんが「もう歩きたくない……」と弱音を言い出したので、今回は六甲ケーブルで下山してきました。多分思ったより登りがしんどかったんですね（笑）今度はめげずに徒歩で下山しましょうね！



大人になると毎日忙しくて、なかなか運動する機会がありませんが、こうやって春の陽気の中、自然を満喫するのはとても気持ちがいいです。こ

れからいい季節になります。また時期をみて登山を企画しますので、参加希望の方がいましたら、いつでも声をかけてくださいね！（三木知津子）

【学習者紹介】

ノーラク・サティカーンさんはタイのバンコク出身で、日本企業にお勤めのキャリアウーマンです。来日は2002年4月です。理系で頭脳明晰。学生時代は数学と生物が得意だったそうです。とても優しくて積極的。授業でも自分から質問文を考えて一生懸命練習しています。

ラハール・バリワンギさんはインドネシアのジャワ島のスラバヤ出身で、2004年9月に来日。神戸商船大学（現神戸大）海事科学部の留学生で、船の解析などの研究を行っています。

写真を撮るのが大好きで、いつでもどこでもカメラを持ち歩き、シャッターチャンスを見逃しません。とても穏やかで面白く、インドネシアでも日本でもニックネームは「ドラえもん」だそうです。

●ラム君との思い出

ファミ ゴッ バオ ラム君と出会ってから4年近くが経とうとしています。出会った当初は私の方が大きかった背の高さも、いつの間にか追い抜かされてしまいました。また、国語の教科書を読むことで精一杯だった日本語力も日本語能力検定試験2級に合格するまでになりました。ラム君はこの4年間で体も精神力も日本語力も本当に成長したように思います。



ラム君と初めて出会ったとき、彼は小学5年生、私は大学に入学したばかりでした。最初のころは会話をしていても、一つの単語や表現方法について何度も言い換えたり、意味説明をしなければな



らず、話が中断してしまうことがしょっちゅうでした。しかし、そんな中でも、お互いに好きなこと、好きな食べ物、今日のできごと、ベトナムのこと、ベトナムの従妹や友達の話などを身振り手振り、時には絵も交えて伝え合ってきました。はじめのころはベトナムでの思い出話を中心だった私達の会話に、日本の小学校での話が加わり出した頃からラム君の日本語が飛躍的に上達していったように思います。日本での生活を受け入れ、友達を作り、その友達と話をして自分の意志を伝えたり、相手が何を言いたいのかを真剣に考えたりすることが日本語の上達につながっていったのだと思います。クラスの友達とどんなことをしたのか、今何を勉強しているのか、体育ではどんなことをしたのかというようなことを、目をきらきらさせながら一生懸命話して聞かせてくれたことが懐かしく思い出されます。

ラム君との思い出の中で、もう一つ印象深いことは二人でしたゲームです。これは五目並べのようなゲームで白黒の丸で陣地争いをするものです。ラム君がまだ日本語を上手く操れないときに、必死で知っている表現を使ってルールを説明してくれた姿が思い出されます。その日以来、私達は、ほとんど毎回欠かさずに対戦してきました。対戦結果については、最初の頃こそ私の負けが続

いていましたが、今ではお互いに勝ったり負けたりという互角の戦いを繰り広げています。最後の授業の日にも対戦しましたが、一勝一敗と引き分けて終わりました。いつかまた会うときに決着をつけようと約束しています。

ラム君はこの夏、ベトナムに帰ります。ベトナムに戻ってからも日本語の勉強は続けていくそうです。「また日本に來たいんだ」と話してくれました。ラム君が日本とベトナムとの掛け橋になる日も、そう遠くないかもしれません。ラム君と出会え、共に日本語を勉強してこられたことをうれしく思います。(山本温子)

●岩野優さん 卒業おめでとう！！

水曜日に鄭麗珍さんと学習している岩野優さんが今春、神戸松蔭女子学院大学をめでたく卒業されました。



岩野さんは今後中国の北京外国語大学の日本語教育に携われるそうです。今後のご活躍をお祈りします。

みんなのひろば



◆恒例 今年もお花見できました！

(2006年4月1日 ひろばの近くの公園)



今年のお花見はひろばから歩いて 10分の公園で行いました。天気予報を信じて？ 満開ではなかったのですが、次週になると雨みたいなので、少し肌寒い土曜日に決行しました。河畔の風情はありませんでしたが、運動場付の公園だったので、ボール遊びやジャンケンゲームなどをして楽しみました。

グエン バオ クオックさんの赤ちゃんも初めてのお花見に翌日離日するおばあちゃんと一緒に楽しんでいましたよ。

さて、来年はどんなお花見になるのでしょうか？ 期待して、今から「てるてる坊主」を作らましよう。



◆**兵庫 日本語 ボランティア ネットワーク
研修会に参加して**

(2006 年 4 月 22 日)

「支援グループの現状と課題」をメインテーマに各教室の様子や困っていることなどを話し合いました。どの教室も同じような悩みを抱えてい

て、今後も情報交換を密にすることを確認しあつて閉会しました。

6月24日(土曜日)神戸市長田ピプレホールでネットワークの総会が開かれます。名古屋外国語大学尾崎明人先生による「市民活動としての日本語学習支援(課題と方法)」の研修会もありますので、希望者は出席して下さい。

■お知らせ■

●にほんごひろば岡本 2006 年度第 7 回 総会

6 月 3 日(土曜日) 午後 1 時～2 時

皆様のご協力、ご支援のおかげでひろばも 8 年目を迎えることができました。2006 年度総会を 6 月 3 日(土曜日) 午後 1 時から開催します。2005 年度の活動報告・決算監査報告、2006 年度役員選出・活動方針案・予算案等の議事を行います。みなさまの出席をお願いします。

●七夕まつり

7 月 1 日(土曜日) 午後 12 時ごろ～3 時ごろ

七夕飾りを折り紙で作ったり、願い事を筆で書いたり、浴衣を着たり、また、お抹茶を立てたり、色々楽しいことが待っていますよ。軽食を用意します。無料です。ご家族やお友達を誘ってきてください。

●ひろばの夏休み

8 月 12 日(土曜日)

8 月 16 日(水曜日)

※注意 8 月 19 日(土曜日) 学習はあります。

9 月 23 日(土曜日) は日本の国民の祝日なのでお休みです。

●支援者交流会(予定)

8 月 5 日(土曜日)

学習日が水曜日と土曜日、また、クラス学習ではなくマンツーマンの学習形態をとっているひろばです。支援者間の交流がなかなかできませんでした。学習支援上の疑問点や悩みなどざっくばらんにお話していただける会にしたいと思います。みなさまの参加をお待ちしております。

●バーベキューパーティー(予定)

10 月 7 日(土曜日) 芦屋奥池遊びの広場

●教科書・参考書ぞくぞく

今まで、1 冊ずつしかなくて、貸し出しができなかった、辞典類が複数冊入りました。どんどん活用して下さい。

『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』

『日本語文型辞典』

『日本語文法ハンドブック』

《新しく購入した教科書等》

『新基準対応日本語能力試験対策 日本語総まとめ問題集 2 級』 漢字

『新基準対応日本語能力試験対策 日本語総まとめ問題集 2 級』 読解

『新基準対応日本語能力試験対策 日本語総まとめ問題集 2 級』 実践

『日本語で歌おう』

『日本語集中トレーニング 初～中級』 CD 付

『中級レベルわかって使える日本語』

CONTENTS

★特集 2006 年春 ひろばレポート①「おのみち日本語教室」訪問記 下田美津子……2

2006 年春 ひろばレポート② 「ニュージーランドの日本語事情」 山本温子…3

★支援者・学習者紹介……4

小澤恭子さん・西村美紀さん・西村美佳さん・西村龍介君

中川代利子さん・洪周希（ホン・ジュヒ）さん

木山和子さん・洪元基（ホン・ウォンギ）君

坂本喬子さん・文亨鎮（ムン・ヒョンジン）君

★支援者紹介 平松 久さん……7

★支援者・学習者のひろば……8

六甲山ハイキングだより 第2弾

ラム君との思い出

★みんなのひろば……10

岩野優さん 卒業おめでとう！！

恒例 今年もお花見できました！

★お知らせ……11

にほんごひろば岡本 2006 年度第7回 総会

七夕まつり

ひろばの夏休み

支援者交流会

バーベキューパーティー

教科書・参考書ぞくぞく



〔編集後記〕

今号はひろばの「ちびっ子学習者」を紹介しました。3カ国語を勉強している環境に負けず、日本をたくさん見て感じて欲しいですね。ラム君は昨年12月のスピーチ大会でアメリカに行きたいと言っていましたね。色んな国を見て、素敵な大人になって下さい。元気でね。ひろばに習字の色紙を残してくれましたよ。(I・M)